

令和2年度 清原中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

児童の心身の発達にふさわしい教育を推進し、豊かな思考力・判断力・表現力を培い、心の教育を重視しながら、強じんな気力・体力と思いやりのある心や自主的精神に満ちた実践力を身に付け、自らの向上とより良い社会の発展に貢献しようとする、心豊かでたくましく生きようとする人間を育成する。

◇ 具体目標（めざす児童像）◇

- 1 自ら学び工夫する子ども（考える）
- 2 元気でがんばる子ども（鍛える）
- 3 礼儀正しく思いやりのある子ども（思いやる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」

心豊かでたくましい子どもの育成には、子どもが生き生きと楽しく学習や活動に取り組む、明るく活気ある学校づくりが重要である。そのために「子どもが楽しく学び、居がいを感じる学校」「教職員が特性を生かして、指導力を発揮する学校」「保護者・地域から信頼される魅力ある学校」を目指す。また、教職員の働き方改革を引き続き推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め、調和の取れた教育活動を展開し、合言葉や具体目標の重点化を通して、教育目標の具現化に努める。

- (1) 常に「全ては子どものために」を念頭に置き、一人一人が清原中央小学校の職員であることの自覚と誇りをもって勤務し、公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。また、「働き方改革」の理念を踏まえた取組も引き続き推進する。
- (2) 職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育に当たり、その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。また、一人一人の児童の夢を育む教育活動「夢いっぱいプロジェクト」をより一層推進するとともに、確かな学力、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。
- (3) 地域学校園内の小中学校はもとより、保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし、地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」に示された「基本目標」や「目指す姿」の主旨を十分に理解し、教育計画作成に当たっては、これらの内容を取り入れ活用を図る。
- (2) 学校教育目標の具現化を図るため、地域と連携しながら全教育活動を有機的に関連させるとともに、「深い学び」を実現することを目的として「目指す子ども像と直接関連を図る教育活動」と「教科横断的に身に付けさせたい力と関連を図る教育活動」の二つの視点からカリキュラムマネジメントを進める。また、系統的・発展的な指導と特色ある教育活動が展開できるよう編成する。
- (3) 前年度の教育活動や学校評価の反省を十分に生かすとともに、「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努める。
- (4) 令和3年度の分離新設小開校業務に伴い、2学期は教育課程を圧迫されることが見通されることから、計画的に教育課程が実施できるようにする。

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、教育課程の修正や変更は弾力的に行うものとする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・夢を育む教育活動の推進と教職員の資質・指導力の向上（清央 PRIDE）
- ・校内組織管理とボランティア活用による「働き方改革」の推進及び分離新設に向けた検討

【学 習 指 導】

- ・自分の考えをもち、豊かに表現する児童の育成 ～語彙力を高めることを目指して～

【児 童 生 徒 指 導】

○自ら進んで元気よくあいさつができ、周囲に対して思いやりの心をもち、積極的に友達と関わり合える児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自らの健康・体力の維持向上に関心をもち、生涯にわたって健康的な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組に関わる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	・授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ・高学年における教科担任制や道徳科のローテーション授業を実施し、複数の教職員が児童一人一人の頑張りの良さを積極的に認めたり称賛したりすることで、児童が自信を深め、意欲的に学習に取り組めるように支援する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 92.6%，教職員が 97.9%，保護者が 92.8%で、いずれも数値指標を上回った。 ・ペア学習など、学習形態を工夫するとともに、ローテーション授業を実施して、児童の良さを多角的に評価した。 【次年度の方針】 ・引き続き、授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・コロナ禍でもできる伝え合いの方法を考え、授業の中で取り入れていく。 ・教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで、学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。

す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	・清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を積極的に取り入れ、上級生が下級生の面倒をみる場を設定する。 ・道徳科の授業と全教育活動との関連を図り、思いやりのある豊かな心情を育む。 ・日常生活の中で、児童の親切な行動を称賛したり、紹介したりしていく。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が 100%、保護者は 90.1%と数値指標を上回ったが、児童は 88.1%と下回った。 ・年 2 回の清掃班の編制やドリームタイムでの活動を機会に捉え、上級生と下級生の関わりの場を設定できた。 ・帰りの会で「今日のキラリ」として、児童の親切な行動を称賛する機会を確保した。 ・感謝の言葉を伝えることを生活目標として設定し、児童同士の親切な行いに対する気付きや称賛を促した。 【次年度の方針】 ・取組を継続する。また、来年度は清掃班編制を 3 回とし、交流の機会を広げる。さらに、思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識付けを行う。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	○「清原っ子の約束」や「清央っ子の約束」、学習のきまり、「カテ学ふり返りシート」を活用し望ましい行動習慣の形成を促すとともに、よくできたことについては積極的に称賛し、児童の意欲を喚起する。 ・学校教育目標と関連を図って週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、保護者の協力を得る。 ・学習や生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えとともに、学年に応じて重点的に指導する。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が 97.9%、保護者が 91.3%、地域が 94.7%、児童が 86.6%と数値指標をすべて上回った。 ・「清原っ子の約束」の家庭への配付や、日常的な学習指導により、望ましい生活習慣や学習習慣の形成を促したり児童を称賛したりすることができた。 ・「カテ学ふり返りシート」の活用により、児童に学習習慣を形成させられたとともに、保護者の協力を得た効果的な指導ができた。 【次年度の方針】 ・学習や生活のきまりを定期的に振り返らせ、自己評価させるとともに実態を把握し、必要な指導を行う。 ・児童の望ましい行動やよくできたことを称賛する機会を日常的にもつ。

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	○常時指導を強化するとともに、児童会主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。 ・教職員が率先してあいさつし、児童があいさつする機会を増やす。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が90.8%、地域が100%教職員、教職員が85.4%と数値指標を上回ったが、保護者は73.1%と下回った。 ・児童会主体のあいさつ運動を行い、意識付けを図ることができた。しかし、運動期間が終了すると、徐々にあいさつへの意識が薄れてしまった。また、ポケットに手を入れて歩く児童への指導が必要な状況だった。 【次年度の方針】 ・状況を鑑みながら、今年度行えなかったあいさつ運動等を行い、継続して意識付けを図る。 ・保護者や地域に運動の様子をHP等で発信し、あいさつの励行、ポケットに手を入れない指導を保護者・地域と共に行い、連携・協力の輪を広げていく。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上	・学校行事や児童会活動、学級の係活動において、児童が主体的に活動できる場を随時設定し、個人や集団で目標達成に向けて根気よく取り組めるよう支援する。 ・学び合う場や協力し合う場を意図的に設定し、共に高め合い、励まし合いながら取り組むことができるよう支援する。 ・学習や活動において、目標を明確にし、ゴールを意識させることで、児童が見通しをもって努力し続けることができるようにする。また、「夢いっぱいプロジェクト」との関連を図りながら活動を進められるようにする。	A 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が89.5%、教職員が95.8%と数値指標を上回ったが、保護者は77.7%と下回った。 ・コロナ禍のため、児童の活躍する場や保護者が来校できる機会も激減した。 ・限られた中で、児童は協力し合いながら取り組む姿が見られた。 【次年度の方針】 ・次年度も活動が制限されることが予測されるので、児童が活躍する場を工夫したり、教職員が児童にやれることを提案したりするようにする。 ・コロナ禍の中でも行えた行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに一斉メールなどで、HPがアップされていることを定期的にお知らせする。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	・給食だより、保健だより等を活用し朝食の大切さや偏食について、保護者へ啓発を図る。また、「朝ごはん食べよう週間」を設定し、望ましい食生活の習慣化を図る。 ・「キラキラウィーク」を実施し、児童の歯磨きに関する実態の把握と啓発を図る。 ・登校班長会議や登下校指導、休み時間の生活指導を行い、事故を防ぐとともに、自ら安全に生活しようとする習慣を身に付けさせる。 ・避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、「清央っ子の約束」を活用して日常の生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 92.0%、教職員が 100%、保護者が 91.3%で、いずれも数値指標を上回った。 ・健康安全共に授業や学校行事を通して、意識化を図るとともに、学校生活の中で児童の実態を把握し、適宜指導できた。 ・登下校の指導では、登校指導や班長会議、学年下校指導を通して事故を未然に防いだり、トラブルの際にはすぐに班を集めて話し合う場をもったりするなどすることができた。 ・年間3回の避難訓練（地震火災・竜巻・不審者）や1年生の引渡し訓練を実施し、各学級において発達段階に応じた振り返りにつなげた。 【次年度の方針】 ・次年度は学校の規模が前年度に比べて小さくなることを踏まえ、学校生活の中の危険について職員であらかじめ共通理解を図りながら、児童の指導に当たる。 ・保護者や地域の安全ボランティアと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにさせる。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 ※A 5 で評価	・学校行事や児童会活動、学級活動、クラブ活動において、児童一人一人が自分の役割を果たせるようにするとともに、活動を振り返り、今後の生活に生かせるよう支援する。 ・「夢いっぱいプロジェクト」を推進するとともに、道徳科や学級活動を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 ・ローテーション道徳により、他学級の児童の良さを教員同士で共有したり、キャリアパスポートを活用して、児童に自分の夢と向き合うきっかけを作ったりする。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合はA5に同じ。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の活動を通して、めあてを達成する喜びを味わう機会を得ることができ、自己肯定感の高まりにつながった。 ・クラスタイムを活用し、夢プロに取り組む時間が確保された。 【次年度の方針】 ・個人だけでなく、学級全体、児童会活動などにおいても、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・ローテーション道徳など様々な教育活動の中で、全児童の良さを全職員で共有する。 ・クラスタイムを引き続き活用し、夢プロの充実を図る。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・ALTを効果的に活用し、英語でのコミュニケーションに親しむ機会の充実を図る。 ・ALTによる読み聞かせ等を実施し、授業以外にも英語に親しめるよう努める。 ・英語専科教員が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が87.5%、教職員が93.8%といずれも数値指標を上回った。 ・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。 ・豊富な資料を効果的に授業に活用することができた。 ・校内に英語の掲示物を設置し、触れる機会を増やした。 ・英語専科教員が中心となって、校内研修を開催し、クラスで使える英語や授業の流れを研修して、教職員の資質向上を図った。担任がALTや専科教員と共に授業を行うことによって、教職員の資質向上につながった。 【次年度の方針】 ・給食時に英語の歌などに触れさせ、授業以外でも英語に親しむ機会を設ける。 ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・社会科やチャレンジタイム等での調べ学習や校外学習・地域人材との学習を通して、清原地区や宇都宮の良さを意識できるようにする。 ・身近な地域の良さを踏まえ、市全体の特徴を捉えられるよう学習活動を工夫していく。 ・宇都宮市のイベントや行事などのお知らせを配付する際には、宇都宮の良さを知らせるようにする。	A 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が80.5%と数値指標を上回ったが、教職員は70.8%、保護者が53.5%と下回った。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間を通して、宇都宮のよいところを探したり、他の地域と比べたりすることができた。 ・校内放送で「宇都宮の歌」を流すことで、自分たちの住む宇都宮を知るための機会を設けた。 ・給食では、「宮っ子ランチ」を実施し、地産地消の考えを促した。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで理解を深める。 ・清原の豊富な地域の教材を活用した学習を様々な教科において展開する。 ・学年便りや学校便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。

A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・各教科、領域において、パソコンやインターネット等を効果的に活用した授業を発達の段階に応じて継続的に実施する。また、必要に応じて「まなびポケット」の活用を図る。 ・プログラミング教育において、児童にパソコン活用に対する必要性の意識を高めていく。 ・担任と学校図書館司書が連携を深めながら、各教科の調べ学習において、学校図書館の積極的な活用を図る。	A 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が95.8%、児童が83.8%と数値指標を上回ったが、保護者は64.0%と下回った。 ・社会科や総合的な学習の時間での調べ学習を通して、積極的にパソコンを活用した授業を行うことができた。 ・学校図書館司書と連携し、テーマに応じた本を集めてもらい授業の展開に活用した。 ・デジタル教科書や実物投影機を使用し、視覚的に分かりやすい授業に努めた。 ・下学年は、本を活用しての調べ学習が多く、パソコンに触れる機会がとれなかった。 【次年度の方針】 ・校内読書週間を次年度も実施し、本に触れる機会を確保し、各教科での調べ学習等にも活用するなど、自分が興味ある種類の本以外も積極的に読めるように促す。 ・パソコンについては、発達段階に応じて体験できる機会を意図的に設ける。 ・プログラミング教育において、児童のパソコンに対する必要性の意識を高めていく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 ※A2で評価	・新型コロナウイルス感染防止対策に配慮しながら昔遊びや出前講座等、高齢者と触れ合う機会を設定し、交流を図る。 ・「感謝の会」を実施し、登下校の見守りや読み聞かせ、学習等で支援を受けた体験を振り返り、感謝の気持ちをもたせる。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合はA2に同じ。 ・今年度は低学年の昔遊びや登下校の見守り、数回の読み聞かせの機会しかなく高齢者と関わる時間が激減した。 【次年度の方針】 ・昔遊びなど行えた行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに、一斉メールなどで、HPがアップされていることを発信する。 ・感謝の会が実施できないなど直接関われないときは、お手紙を書くときなどに、高齢者を意識した声掛けなどを行っていく。

A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・チャレンジタイムの学習を通し、身近な自分の生活と持続可能な社会との関わりを考えさせるなどして、福祉や環境、異文化交流への関心を高める。 ・生活科や理科、道徳の授業、委員会活動を通して、動植物を思いやる心を育てる。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 83.3%と数値指標を上回ったが、教職員は 54.2%と下回った。 ・5 学年「ナルクの会」とのどんぐりの育成活動や環境委員会の「アルミ缶回収」や「リサイクル用紙回収」などを通し、環境への意識や思いやる心を高めた。 ・総合的な学習の時間で、環境に対する意識やこれからできることを考え、介護施設職員の方の講話や盲導犬との触れ合い、車いす体験などで福祉への理解を深めた。 A 【次年度の方針】 ・次年度も継続して、実施した活動が何につながったのかを明確にするために各種便りに結果を掲載したり、校内放送で周知したりすることで共通理解を図る。 ・物を大切にすることを育むために、物への記名や生活委員会の啓発ポスターなどを活用する。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。
B1 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	○「清原っ子の約束」「清央っ子の約束」「家庭学習のすすめ」を活用したり、「カテ学振り返り週間」を設定したりして、家庭学習の重要性について保護者への啓発を図り、指導の効果を高める。 ・学級活動で家庭学習の仕方を指導し、目安となる時間や内容を提示したり、実践している児童を称賛したりして、児童が家庭学習に取り組もうとする意欲を高める。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が 91.7%、児童が 83.4%と数値指標を上回ったが、保護者は 68.4%と下回った。 ・「カテ学振り返り週間」の設定により、学習習慣の定着が図られつつある。家庭との連携を図り、自主的に学習に取り組む態度を養いたい。 A 【次年度の方針】 ・「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「カテ学振り返り週間」を年に3回設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。 ・スタンダードダイアリーの家庭学習時間の欄を活用し、毎日継続して記入できるように声掛けをしていく。

	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	・校内支援委員会を通して教職員間の情報共有を図るとともに、学級や学年間の情報交換を密にして広く児童理解に努め、組織的に児童の支援に当たる。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を図りながら、個に応じた支援を展開する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が97.9%と数値指標を上回った。 ・年間2回の校内支援委員会を中心として、月1回程度の情報交換会や日常的な教員同士の情報交換を機会に共通理解を図り、適切にケース会議等を行うことにより、一人一人のニーズに応じた組織的な支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を密に行うとともに、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して解決に努める。
目指す学校の姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	・いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めるとともに、いじめは許されない行為であることを徹底できるよう、様々な機会を生かして継続的な指導を行う。 ・道徳科において、いじめに関わる授業の充実を図るとともに、児童の小さな変化にも気を配ることで、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・スマートフォンや携帯電話の使い方等については、各学級、学年において実態に応じた指導を行う。 ・いじめ認知の際は、「いじめ対策委員会」を設置し、組織的に対応する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が97.0%、教職員が100%と数値指標を上回ったが、保護者は74.5%と下回った。 ・いじめゼロ強調月間を通して児童への啓発を行ったり、いじめに関するアンケートや教育相談を基に事実の把握をしたりすることができた。また、日常的な指導の中で、いじめは許されないことを継続して指導してきた。 ・スマホ・ケータイフィルタリング設定100%キャンペーンを機会に、全学級で同日に行うことで効果的な指導ができた。また、リーフレットやメール配信により、保護者への啓発にもなった。 【次年度の方針】 ・いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に組織的に対応できるよう、全教職員が報告・連絡・相談を確実に行う。 ・いじめゼロ強調月間の活動等、学校での取組を児童指導だより等で、保護者に発信していく。 具体的には、いじめゼロ標語を保護者と共に作成することしたり、クラス代表作品を家庭に知らせたりしていく。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ・「夢いっぱいプロジェクト」を推進し、児童同士、担任と児童との良好な関係を築く。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援を展開する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が95.5%、教職員が100%と数値指標を上回ったが、保護者は88.9%と下回った。 ・教職員の不登校に関する意識は高く、情報交換などを通して、同じ認識の下、児童に関わることができている。 【次年度の方針】 ・学年だけでなく、全職員で児童を見ていくという意識を高めて、連携を密にしていく。 ・HPや学校だより、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報提供していく。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ※A13で評価	・日本語ボランティアを活用し、個に応じた日本語指導を充実させる。 ・日本語教室での学びが学級内で生かされ、当該児童の学校生活の充実につながるよう、担任との連携を密にする。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合はA13に同じ。 ・外国人児童生徒教育拠点校に指定されているため、加配教員が配置され、充実した学習活動を行うことができた。 【次年度の方針】 ・今後も国外からの児童の編入学が予想されるため、より一層、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを充実させていく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答95%以上	・「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の浸透を図り、活気のある学校づくりを進める。また、HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。 ・共遊・児童会集会活動・縦割り班活動等を工夫、改善しながら、児童が生き生きと活動する教育活動を展開する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は教職員が93.8%、地域が100%と数値指標を上回ったが、保護者は90.8%、児童は88.1%と下回った。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の推進・実践により活気のある学校づくりを進めてきた。 ・コロナ禍で学校行事や児童会活動等が縮小される中、児童に主体性をもたせながら活動を工夫できた。 【次年度の方針】 ・「夢プロジェクト」の実践を通して、良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。 ・ドリームタイムや児童会主催の活動を拡充させ、主体的に人と関わる力を醸成していくとともに、クラスとしてのまとまりを強めるような取組を推進する。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	・校内で授業の進め方、課題の明確な提示、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図るとともに、朝の「学習タイム」を活用し、課題の質・量・手立て等を工夫しながら、基礎学力を確実に定着させる。 ・少人数指導や特別支援教育担当と共通理解を深め、個に応じた指導の充実がより一層図れるよう、児童に関わる教職員間の情報交換を密にしながら学習指導を進めていく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が95.6%、教職員が100%と、数値指標を上回ったが、保護者は83.5%と下回った。 ・休校による授業時数の不足分を朝の学習時間で補ったため、計画的に学習を進めることができた。 ・授業の進め方や板書の仕方については、共通理解や共通実践が進んでいる。 ・少人数指導や個に応じた指導、特別支援学級、日本語指導、かがやきルームの対応等により、児童一人一人のニーズに応じて効果的に支援することができた。 【次年度の方針】 ・朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・行事や授業の準備等、学年内での役割分担を的確に行い、連携を密にして教育活動を行う。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT等の学校スタッフと積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が95.8%と数値目標を上回った。 ・個々の役割を行うだけではなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 【次年度の方針】 ・個々の役割と責任を明確にした上で、主務者の負担軽減、担当職員が確実な業務分担をして相互に協力しながら業務を行う。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・前年度に実施した「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、取組を着実に実施し、業務の効率化を図る。 ・リフレッシュデーを毎月設定し、計画的な業務遂行に努める。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が91.7%と数値指標を上回った。 ・前年度に実施した「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、取組を着実に実施し、業務の効率化を図っている。 【次年度の方針】 ・優先順位を付けて業務に当たるなど、個々の教職員の取組を継続する。 ・ブロックごとに月に1回のリフレッシュデーを着実に実行する。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得る。 ・ボランティアによる参画も含めた業務の効率化を進めていく。 ・学年主任会や校務運営委員会を精選する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上	○6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。 ○地域学校園の各部会の検討を通して、小中学校の教職員が目標を共有しながら取組を進める。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が91.7%、地域住民が100%と数値指標を上回ったが、児童が48.7%、保護者が75.0%と下回った。 ・新型コロナウイルス感染症を予防するために中学校生徒と小学校児童が直接関わる活動を行うことができなかった。 ・児童生徒指導強化連絡会や巡回指導の機会に中学校や各小学校との情報交換を行い、児童生徒に関する共通理解や学校園としての課題の把握に努めた。 【次年度の方針】 ・状況を鑑みながら、今年度行えなかったあいさつ運動等を行い、中学生と関わる機会を設定し、学校園としての意識をもたせる。 ・中学校訪問時に、6年生を中心に中学校での生活のきまりを事前に伝達する機会をもつ。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	・地域協議会との連携を進め、食育出前講座等の特色ある活動の充実を図る。 ・地域人材や企業等の出前授業を効果的に取り入れたり、地域の幼稚園、保育園との交流を実施したりするなど、専門的、体験的な学習活動を行う。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者が85.1%、地域が100%と数値指標を上回ったが、児童が84.3%と下回った。 ・地域の教育力を生かした活動やボランティア活動も縮小されたが、実施できたものにおいては、成果を十分上げることができた。 【次年度の方針】 ・地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。 ・外部講師を招いての教育活動は、実践内容を精選し実効性を高める。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 ※A22 で評価	○地域協議会を中心に、学校・家庭・地域が一体となって、児童の安全確保や健全育成の取組を更に強化する。 ○地域コーディネーターを通して、保護者・地域・企業等と連携したり、学校支援ボランティアを活用したりしながら授業や学校行事における教育活動の充実を目指す。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合はA22に同じ。 ・地域や保護者と連携した通学路の点検、登下校の見守り等を継続・実施し、児童の安全を確保できた。 ・地域コーディネーターやPTA役員を通して、可能な限り教育活動の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ・ボランティア人材バンクを作成・蓄積していく。 ・地域の人材の確保や発掘を行い、授業を充実させられるよう計画・連絡・調整していく。 ・地域の教育機関や企業等との連携を強化していく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・各種、学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。 ・校内や学校周辺で危険が予想されるときには、メールや学校だより等により周知を図るとともに、学校の取組を積極的に発信する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が97.9%、保護者が91.1%、地域住民が100%と、いずれも数値指標を上回った。 ・毎月の安全点検を実施し、危険箇所の早期発見や事故の未然防止に努めた。 ・校内電話が充実していることで、様々な報連相が迅速に行えた。 ・「清央小遊びの約束」を継続して使用し、職員に周知、掲示物を各学級へ掲示することで休み時間の校庭のエリア分けを行い、児童の安全確保に努めた。 ・「校内けがマップ」を活用し、校内でのけがの種類やその発生場所を周知することで、児童の安全意識の向上を促した。 ・コロナ感染症拡大防止のため、足跡の掲示を廊下やトイレ等に貼り、校舎内でのソーシャルディスタンスを保つなど、健康安全に関わる環境を整備した。 【次年度の方針】 ・多くの方が来校する運動会などの学校行事では、いろいろな立場での動線を考え、計画に反映する。 ・学校での安全に関する活動を保護者により知ってもらえるように、簡単な文章や写真と共に学校ホームページへの掲載で発信する。

	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 ※ A10 で評価	・パソコンやデジタル教材等，I C T 機器の整備に努めるとともに，授業研究会を通し，教職員の指導力向上を図る。 ・児童や教師のニーズ，学習や発達の段階に応じた図書を整備していく。また，地域の歴史を素材とした資料の整備等，潤いのある環境づくりに取り組む。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は A10 に同じ。 ・学校図書館司書の協力を得て，学校図書館や市立図書館から授業に必要な資料や図書を準備し，充実した調べ学習ができた。 ・読書週間を設定するなどして，児童が本に親しむ機会を意図的，計画的に増やし，児童の興味関心を高めた。 ・職員研修で，プログラミング教育に関する研修を行い，指導力の向上を図った。 【次年度の方針】 ・新しい教科書の内容に沿った資料をそろえ，授業に対応できるよう蔵書整備を行う。購入資料選定の際に，幅広い資料を選定できるよう，全職員が資料を選択できる環境づくりを引き続き行う。 ・学級文庫を図書室から定期的に貸し出すことで，良書に触れる機会を増やし読書意欲の向上を図る。6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで，自身の読書傾向を知る手掛かりにし読書の質を高めていく。 ・一人一台タブレット型パソコンが導入されるので，授業での活用方法についての研修を行い，各学級での使用機会を増やしていく。
	B2 教職員は，主体的に授業研究に取り組み，指導の工夫改善に努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・学校課題に基づいて，研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し，児童の学びの姿を参観し合い，指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は，教職員が 100% と数値指標を上回った。 ・一人一授業や授業研究会等を通して，指導内容や指導方法の工夫改善について意見交換を行った。 ・教科担任制の導入やローテーション授業により，十分な授業研究の時間が確保でき，指導の工夫改善につながった。 【次年度の方針】 ・全国学力テスト，学習内容定着度調査，とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し校内研修等で検討することにより，引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。

本校の特色・課題等	B3 学校は「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の下、夢を育む教育活動を推進している。 【数値目標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上	・夢いっぱいプロジェクトを推進し、児童一人一人が充実感や達成感を味わえる取組を積極的に行う。 ・縦割り班活動や異学年交流の充実を図り、互いを認め、互いを大切にする心を育てる。 【清掃、ドリームタイム等】	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員、地域住民ともに 100%と数値指標を上回ったが、児童は 88.7%、保護者は 86.6%と下回った。 ・児童自身が自分の夢や目当てに向かって、頑張る姿が多く見られた。 ・児童が学校行事や児童会活動に積極的に取り組めるよう「夢いっぱいプロジェクト」を核にして支援を行った。意欲的に活動する姿が随所に見られたが、今後も活動の意義を丁寧に説明していき、更なる児童の積極性を高めたい。 【次年度の方針】 ・クラスタイムを活用し、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにできるようにする。 ・夢やめあてを表すときに、数値化することで、目標を明確にし、児童の意識を高める。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流で、上学年が下学年のために何ができるか考える機会をもつ。下学年は、上学年に対して憧れをもてるような機会を設け、担任教師の助言を行う。
	B4 学校はPTAや地域、行政と連携しながら、分離新設に向けた準備を着実に進めている。 【数値目標】 教職員・保護者・地域の肯定的回答 80%以上	・分離新設に向け、地域協議会や保護者懇談会において情報を発信していく。 ・保護者や地域の願いを反映できるように、連携を図っていく。	C	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が 97.9%、保護者が 91.5%、地域が 100%と、いずれも数値指標を上回った。 ・分離新設に向けた検討事項や準備内容等について、地域協議会やPTAの会議の場を中心に、地域や保護者と共有することができた。また、保護者や地域の願いが反映できるよう、教育委員会との連携を図った。 【次年度の方針】 ・分離新設に向けて、全教職員が連携し滞りなく準備を進める。 ・学校からの情報発信を継続的に行う。 ・保護者や地域と連携しながら協議・準備を進めていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組に関わる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校、地域、PTA、各諸団体が連携、協力しながら教育活動に取り組んだ結果、学校評価アンケートの肯定的な割合が、昨年度に比較し全体的に高くなっている。
- ・児童の評価では、A21「小中一貫・地域学校園の取組を行っている。」の項目を除き、28項目において80%以上の児童から肯定的評価を得ており、児童の自己肯定感や自己有用感は比較的高い水準を維持していると思われる。
- A3「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」の項目では、数値指標をすべて上回った。特に、教職員、保護者、児童の肯定的回答の割合が昨年より向上した。今後も引き続き、きまりやマナー、生活や学習の指針を児童と共に確認・浸透・定着を図っていく。
- A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の項目では、教職員、地域住民、児童は数値指標を上回ったが、保護

者に関しては下回った。コロナ禍で地域学校園でのあいさつ運動が中止や児童主体のあいさつ運動が制限されたが、次年度も児童主体のあいさつ運動を展開・推進し、取組の実際を情報発信していく。

- ・A6「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」の項目は、教職員、保護者、地域住民、児童のすべてにおいて数値指標を上回った。児童は、新型コロナウイルス感染症予防対策を取りながら健康に配慮したり、安全への意識を高めたりしながら落ち着いた学校生活を送ることができている。
 - ・A9「児童は、宇都宮の良さを知っている。」の項目では、保護者の肯定的回答の割合が昨年度に比べ8.6ポイント上昇した。「宇都宮学」の学習が充実してきた結果でもあるが、地域に愛着がもてるような活動や清原地域を中心とした宇都宮市の特色を理解できるような指導を工夫改善していく。
 - ・A10、A25「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」「学校は、学習に必要なICT機器や図書等を備えている。」の項目では、教職員、保護者、児童のすべてにおいて、昨年度よりも大きく上昇している。GIGAスクール構想による1人1台タブレット型パソコンの設置により、さらに積極的にパソコンを活用するとともに、プログラミング教育の充実を図る。
- A21「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。」の項目は、児童が48.7%と昨年度に比べ大きく下回った。小中連携した行事が中止になり、やむを得ない結果であったとも考えられる。
- A22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」の項目では、教職員、保護者、地域住民が数値指標を上回ったが、児童はやや下回った。次年度も新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、ボランティアの協力を得たり企業等の出前授業を活用したりするなど、特色ある教育活動の充実を図っていく。
- ・A24「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」の項目は、数値目標をすべて上回り、特に保護者回答は4.8ポイント上昇した。次年度の分離に向け、施設を有効利用しながら安全に配慮した教育活動を引き続き行っていく。
 - ・B3「学校は、『夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小』の合言葉の下、夢を育む教育活動を推進している。」の項目では、教職員、地域住民の肯定的回答の割合は数値指標を上回ったが、保護者、児童はやや下回った。クラスタイムを活用し、目的や活動の意義を児童がより深く認識できるようにするとともに、保護者に情報発信し連携して支援していけるようにする。

7 学校関係者評価

- ・挨拶については保護者の評価は高くはないようであるが、地域に住む児童からは元気に挨拶を受けている。学校に出向いたときに、進んで挨拶ができる児童が多い。
- ・全体的に児童の自己評価が高くなって安心している。自己肯定感や自己有用感を育む教育が継続してなされていると思われる。
- ・朝の読み聞かせでは、児童は落ち着いて話を聞いている。聞く態度が定着していると思われる。
- ・児童は比較的安全に登校している。上級生が下級生を気遣いながら登校する様子が見られた。ゆいの杜地区は歩道の混雑を避けるため、スクールガード隊や見守りの方が信号や交差点である程度の時間調整を行っている。下校に関しては、時折、注意が必要な場面も見受けられるので、今後も地域、保護者、学校が連携しながら児童を見守っていききたい。
- ・コロナ禍で企業や事業所と連携した活動が縮小されてしまったと思われるが、地域のよさや人材を効果的に活用しながら引き続き教育活動を行ってほしい。「宇都宮学」を地域の特色やよさと関連付けながら学習することで地域への愛着を育んでほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組に関わる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、学習活動や学校行事などが縮小・削減されたにもかかわらず、児童の自己評価は、全体的に高い結果となった。今後も、児童が主体的に活動できる場を意図的・計画的に設定し取組を工夫していくとともに、個に応じた支援を充実させることで児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。
- ・「夢いっぱい友だちいっぱい清央小」の活動・実践を通して、良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。
- ・ドリームタイムや児童会主催の活動を拡充させ、主体的に人と関わる力やクラスや学年・学校としてもまとまりを育んでいけるような取組を推進する。
- ・次年度も各種便りの発行や学校ホームページ等を通して積極的に情報を発信し、学校の取組を理解していただくとともに家庭や地域と連携を図り、協力や支援を得られるように努めていく。

【学習指導】

- 家庭学習の充実・習慣化を図るため、「カテ学ふり返り週間」を年3回設け保護者に協力を求める。
- ・高学年において教科担任制を進め、児童の授業への意欲や専門性を高めることができるようにする。
- ・校内研修を通して重点目標の共通理解を図り、授業の実践・公開をするとともに自己研修に積極的に取り組み、教職員と

しての資質・能力や指導力の向上に努めていく。

【児童指導】

- 「進んであいさつをする」望ましい態度を更に身に付けていけるよう、児童の主体的な取組を積極的に支援し、挨拶運動等の活動を活性化していく。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携して支援ができるよう協力を求める。
- ・「いじめ」や「不登校」の問題を解決するためには、保護者や関係機関、地域との連携が必要であることから、地域協議会や学級・学年懇談会等の機会を利用して必要な情報を提供する。
- ・いじめの未然防止・早期発見・対応・解決に向けた学校の取組を伝え、学校の信頼をより高められるよう努めていく。また、いじめ防止に向けた児童の創意ある主体的な活動を支援するとともに、コミュニケーション力や友達とよい関係を築く力を身に付けさせる。

【健康（体力・保健・食育・安全）】

- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を基に、教科体育において十分な運動量を確保するとともに指導法を工夫し、個々の運動への関心を高めるとともに体力の向上に努める。
- 水泳、鉄棒、縄跳びなどのがんばりカードの活用や健康教育・食育に関わる便りの発行やイベントの実施など、地域学校園共通の取組を次年度も継続させていく。